

幼児の声を、幼児の足音を身近に聞き、幼児から笑いかけられ、話しかけられて、幼児の生きた息吹きの中に身をおくことは、何と幸いなことであろうかとつくづく思う。

幼稚園に出かけてくるのが気の重い朝、教師の心を引きたて、力づけてくれるのは、とびついてきてくれる子どもの笑顔である。沈んでいる大人の心を、パッと明るくしてくれるのは、小さなことに

楽しみを見いだして屈託のない幼児の存在である。幼児に励まされて、気をとり直して、また一日を歩き始める日が、幾日あることだろうか。

一日の厳しい勤めを終えて家に帰る父親は、出迎えてくれる幼児の姿にふれるとき、一日の煩わしさからはじめて解き放たれて、自分の生活をとりもどす。その幼児は、たくまざる教育者である。その存在は、大人の心を和らげ、疲れてすりきれた心を再生させる力をもっている。

る。幼児がいなかったら、人間に幼児期がなかったら、人生は寂寞としたものとなるであろう。

不安と緊張の多いこの時代に、幼児は、人々の心に安らぎを与える。幼児の生活に、楽しさと満足とが絶えないようにすることは、この時代の大きな課題である。

幼児との生きた接触が失われると、幼児教育や研究が、幼児の生活を支配しようとする傾向を生みやすい。あるいは、幼児の生活から遊離するおそれもある。幼児教育のことを考えたり、研究したりする人は、日常の生活の中で、幼児の声を聞き、幼児の生きた息吹きにいつもふれている必要があると私は思う。

子どもによっていかに心がやわらぎ、子どもから学ぶことがいかに多いかを、もう一度思い起こしたい。(津守 真)

幼児の教育 第七十三巻 第十二号

十二月号 © 定価一七〇円

昭和四十九年十一月二十五日印刷
昭和四十九年十二月 一日発行

112 東京都文京区大塚二ノ一ノ一

お茶の水女子大学附属幼稚園内

編集兼 津 守 真
発行者

112 東京都文京区大塚二ノ一ノ一

お茶の水女子大学附属幼稚園内

発行所 日本幼稚園協会

108 東京都港区三田五ノ二二ノ一

印刷所 図書印刷株式会社

101 東京都千代田区神田小川町三ノ一

発売所 株式会社 フレーベル館

振替口座東京一九六四〇番

◎本誌御購読についての御注文は発売所
フレールベル館にお願いいたします